

リニア駅周辺整備の基本設計の概要と概算事業費等について

1 リニア駅周辺整備の基本設計の概要

- (1) 基本設計の概要は、別添「飯田・リニア駅前空間デザインノート（案）」（以下、「デザインノート（案）」）の記載内容の通り
- (2) エネルギーセンター、商業施設、店舗については、民間等による整備を想定する。
- (3) 大屋根については、計画面積約 1.6ha のうち、開業時まで約 1.1ha を市が先行整備する。
- (4) 駐車場については、当面 500 台程度の平面駐車場を市が整備する。

2 イニシャルコスト(初期整備費)

概算事業費 91 億円 (内 整備工事費 41 億円)

※乗換新駅については、J R 東海との調整も含め未確定のため、含めていない

3 ランニングコスト(維持管理費)

概算年平均必要経費 65 百万円

(施設の運営や維持管理及び保守点検や補修費等を想定)

4 実施設計に向けた課題

- (1) 補助交付金制度については、現行制度をベースに検討したが、スーパーメガリージョン構想の策定経過での議論も踏まえる中、国においても国土政策として明確に位置づけた上で、中間駅に対しより積極的な支援を行うよう、県とともに国への働きかけを強化していく。
- (2) 商業施設及び店舗について、そのコンセプトはもとより、整備運営方法についても、地域の魅力を十分に発信できる民間業者を誘引していく仕組みづくりを進める。
- (3) E V、M a a S、自動運転等、新たなモビリティサービスを見据えた二次交通への対応を進める。
- (4) 乗換新駅については、技術的な観点からの検証も進めながら、J R 東海との調整を進める。
- (5) 大屋根の段階的整備に関し、その方法、時期、規模等について、さらなる検討を進める。
- (6) リニア駅前空間における低炭素街区の創出に向け、整備主体として想定される民間への支援策等についての検討を進める。

5 実施設計に向けての準備(案)

<実施設計 検討体制のイメージ>



